

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

|    |        |    |    |    |                          |
|----|--------|----|----|----|--------------------------|
| 氏名 | 樋口 由貴子 | 職名 | 助教 | 学位 | 修士 (看護学) (産業医科大学 2017 年) |
|----|--------|----|----|----|--------------------------|

| 研 究 分 野 | 研究内容のキーワード               |
|---------|--------------------------|
| 小児看護学   | 子ども、ワクチン、感染症、発達障がい児、家族支援 |

| 研 究 課 題   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小児看護に関して、子どもの権利を尊重した看護の実際について考察する。また、入院中の患児とその家族の健康管理について考察する。</li> <li>・ 大学における感染症予防対策として予防接種勧奨のガイドラインについて検討する。</li> <li>・ 一保育園をモデルに感染症予防の具体的方策を検討実施し、その効果について検証する。</li> <li>・ 発達障がい児とその家族への支援について考察する。</li> <li>・ 病気や障害をもつ子どものきょうだいへの支援について考察する</li> </ul> |

| 担 当 授 業 科 目   |
|---|
| 小児看護学演習 (前期)、小児看護学実習 (通年)、小児看護学方法論 (後期)、看護学 (後期) (栄養学科)、基礎看護学実習 I (後期)、基礎看護学実習 II (前期)、感染と免疫 (前期)、成人・老年看護学演習 (前期)、母性看護学演習 (前期)、生活援助技術論 (後期) |

| 授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)   |
|--|
| <p>授業科目名【 小児看護学演習 】</p> <p>ペーパーペイシエントを用いた看護展開と実技演習を行った。事例検討では小児看護の現場で遭遇しやすい事例を作成し、看護展開をおこなった。実際の患児や家族がイメージできるように発問し、看護展開を理解できるように工夫した。実技演習では、援助技術の根拠と発達に応じた工夫をすることの重要性について説明し実践することで、学生が習得できるよう援助した。また、実技習得に向け、学生の自己練習時に指導を行い、全学生が一定レベルに到達するよう工夫した。</p>              |
| <p>授業科目名【 小児看護学実習 】</p> <p>臨床実習中は、患児と家族のベッドサイドと一緒にいき、コミュニケーション方法や技術の提供方法等を行った。特に、発達や個性を考慮した技術とは何かを発問し、学生が気付き実践できるよう指導した。日々、学生がもった「疑問」・「気付き」から看護に広げ、目標達成できるよう努めた。臨床側にも、それぞれの学生の課題を伝え、目標達成できるよう支援を求めた。看護師以外にも医師、保育士などの他職種と学生が関わりを持てるよう調整し、他職種間連携の重要性について学べるよう工夫した。</p> |
| <p>授業科目名【 小児看護学方法論 】</p> <p>「検査・処置を受ける子どもの看護」の講義を担当した。子どもの権利や子どもの発達を踏まえ、子どもの理解の仕方を学生が考えることで、検査・処置時における看護の工夫の必要性を実感し、学生一人一人が看護を考える事が出来るように発問しながら講義を行った。また、実習中の学生が実施したプレパレーションなどの事例の画像を用い説明することで、小児医療現場を見たことがない学年の学生も現場や実習のイメージが出来るように工夫した。</p>                        |

|  |
|--|
| <p>授業科目名【 基礎看護学実習Ⅰ 】</p> <p>初めて患者を受け持つ実習となる為、学生としての身なり・行動や安全、個人情報取り扱いの責任を持つことを意識行動できるよう具体的に指導した。グループで行動する意味を説明し、報告・連絡・相談を意識して行動できるよう指導の工夫をした。プロセスレコードを用い、自己の振り返りの中から自己の特徴と看護者としての在り方を考察できるように支援した。学生が目標達成できるよう、臨床側と学生の現状を共有し、実習環境や指導内容の調整を行った。</p>   |
| <p>授業科目名【 基礎看護学実習Ⅱ 】</p> <p>学生それぞれが、基礎看護学実習Ⅰでの個人課題を克服し、基礎看護学実習Ⅱの目標を達成できるよう臨床側と調整し、実習環境を整えた。学生に対しては、患者さまを実際に見て・触れて・感じたことから気がかりを見つけ、その気がかりの原因を形態機能学などの知識を用い理解し、必要な看護を導き実践できるよう指導した。また、カンファレンスを用い自分の意見をまとめて相手に伝えることの大切さ、グループの学びとして共有し、自己に還元することの大切さについて指導した。学生が、実習の中で自己の強みと課題を見出せるよう工夫した。</p> |
| <p>授業科目名【 看護学 】</p> <p>栄養学科学学生を対象に、オムニバス形式の講義を担当した。「乳幼児期の子どもの健康と栄養」、「学童期の子どもの健康と栄養」をテーマに、子どもの発達を踏まえた援助方法について講義した。講義の中で、テーマディスカッションを取り入れ、看護の視点と栄養の視点から考察できるように工夫した。また、離乳食体験やエピソード練習用トレーナーを用い、体験を通して看護を知ることができるよう工夫した。</p>   |
| <p>授業科目名【 感染と免疫 】</p> <p>細菌培養結果を顕微鏡で観察する演習で、病棟の状況を説明しながら、この知識を病棟や生活でどう使うかなど、知識を活用できるように支援した。</p>   |
| <p>授業科目名【 成人・老年看護学演習 】</p> <p>手術後の看護演習を行った。その際、根拠となる知識を発問しながら、学生に確認し、患者をイメージできるよう声掛けを行いながら、学習の支援を行った。今までの知識を活用し清潔や不潔を意識できるよう声掛けを行い、技術の習得が出来るように支援した。</p>   |
| <p>授業科目名【 母性看護学演習 】</p> <p>沐浴演習では、新生児の解剖生理学に基づき技術の根拠となる考え方とそれを実践する方法について説明し、学生が理解し安全に実践できるよう援助した。</p>  |
| <p>授業科目名【 生活援助技術論 】</p> <p>技術の根拠と患者さまの状態に合わせて工夫することの重要性について説明し、学生が援助技術の根拠を考えながら実施できるように発問した。また、実際に臨床で出やすい場面や状況について補足説明することで、臨床をイメージできるように工夫した。</p>   |

| 学 会 に お け る 活 動 |           |                  |
|-----------------|-----------|------------------|
| 所属学会等の名称        | 役職名等 (任期) | 加入時期             |
| 日本看護協会会員        |           | 2002年4月 (現在に至る)  |
| 日本小児看護学会会員      |           | 2009年1月 (現在に至る)  |
| 日本小児保健協会会員      |           | 2009年4月 (現在に至る)  |
| 日本環境感染症学会会員     |           | 2010年10月 (現在に至る) |
| 日本看護科学学会会員      |           | 2013年6月 (現在に至る)  |

| 2019年度 研究業績等に関する事項                         |         |           |                            |  |
|--|---------|-----------|----------------------------|--|
| 著書、学術論文等の名称                                | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称        | 概要   |
| (著書)<br>なし                                 |         |           |                            |  |
| (学術論文)<br>A 保育園への感染症対策に向けたアプローチ<br>-効果と課題- | 共       | 2020.3    | 西南女学院大学紀要<br>No.24         | <p>① 2013年より保育園での効果的な感染症対策の検討を目的に、A 保育園をモデルに感染症に関する情報提供を継続的に行なってきた。その効果について、園での組織的な取り組み、園児の欠席者数や予防接種率を指標に調査し、その結果をまとめた。</p> <p>② 共著者名<br/>樋口由貴子, 目野郁子</p> <p>③ (P1-P9)</p>               |
| (翻訳)<br>なし                                 |         |           |                            |  |
| (学会発表)<br>A 保育園における感染症対策の取り組み              | 共       | 2019.6    | 第66回日本小児保健協会学術集会<br>(於：東京) | <p>① 2013年より保育園での効果的な感染症対策の検討を目的に、A 保育園をモデルに感染症に関する情報提供を継続的に行なってきた。情報提供後に園での感染症対策の取り組みがどのように変化したかを具体的な実践例をあげ、まとめた。</p> <p>② 共著者名<br/>樋口由貴子, 目野郁子</p> <p>③ 第66回日本小児保健協会学術集会抄録集 (P232)</p> |

| 2019年度 研究業績等に関する事項 |         |           |                     |   |
|--------------------|---------|-----------|---------------------|---|
| 著書、学術論文等の名称        | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要  |
|                    |         |           |                     | 研究業績 総数(2020. 3. 31 現在)<br>著書 1 (内訳 単0, 共1)<br>学術論文 0<br>翻訳 0<br>学会発表 1 (内訳 単0, 共1) |

| 外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)                  |              |  |                 |
|--|--------------|--|-----------------|
| (1) 共同研究   |              |  |                 |
| 研究題目   | 交付団体         | 研究者<br>○代表者( )内は学外者                      | 交付決定額<br>(単位:円) |
| 重篤な疾患や重度の障害を抱える子どものきょうだいに対するパフォーマンスアーツを活用した支援の検討 | 西南女学院大学共同研究費 | ○ 笹月桃子<br>野井未加<br>文屋典子<br>山本佳代子<br>樋口由貴子 | 2,009,000       |

| 外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む) |      |                 |    |
|---------------------------------|------|-----------------|----|
| (2) 個人研究                        |      |                 |    |
| 研究題目                            | 交付団体 | 交付決定額<br>(単位:円) | 備考 |
| なし<br>(科学研究費を申請したが2019年度不採択)    |      |                 |    |

| 社会における活動等          |      |           |
|--------------------|------|-----------|
| 団体・委員会等の名称<br>(内容) | 役職名等 | 任期<br>期間等 |
| なし                 |      |           |

| 学内における活動等(役職、委員、学生支援など)  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健福祉学部1年生および助産別科1年生への感染症予防/予防接種手帳配布と抗体検査後の予防接種勧奨(2011年6月～現在に至る)</li> <li>・親子遊びの会(ほほえみの会)(2016年4月～現在に至る)</li> <li>・キャンパスハラスメント委員(2018年4月～2020年3月)</li> <li>・看護学科3年生アドバイザー(2019年4月～2020年3月)</li> </ul> |